

自閉症教育プロジェクト研修会報告

日時：2009年2月28日（土）2時～4時30分

場所：大阪市立中央会館ホール

講師：神戸市須磨区保健福祉部 松本恵美子先生

テーマ：「子ども期に必要な支援－青年期、成人期を見通して－」

報告：

松本先生には、昨年度も発達障害の子どもたちの特性について分かりやすく講演していただきました。今回は、青年期や成人期を見通して、子どもの時にどのような視点で、どのような内容で学習や支援を行なっていけばよいのかをテーマにお話ししていただきました。時期がちょうど年度末の忙しい時期に入ってきていましたが、会場には60名を越える先生方の参加がありました。保護者の参加も数名ありました。

前半は、ADHD、アスペルガー障害と高機能自閉症、学習障害の特性についての具体例をあげてのお話でした。自閉症の特性では、特にことばの意味理解ができていないことから、さまざまな行き違いが生じることを具体的な例で紹介していただきました。

後半は、特別支援教育の新たな課題として、従来のボトムアップでの取り組みだけでなく、トップダウンでの目標設定と取り組み内容の設定が大切なことを紹介していただきました。これまでは、認知スキルやコミュニケーションスキル、友だちとの間でのやり取りなど、下から積み上げていくボトムアップでの教育が主流でした。現在は、これまで支援してきた子どもたちが青年期に達し始めてきていて、新たな課題も出てきています。学校のなかだけでの学習ではなく、青年期や成人期になった時点から見なおした目標や内容の設定がなされること、つまりトップダウンでの取り組みも大切となってきました。社会に出てから SST では対応できない点などに、LST（ライフスキルトレーニング）の取り組みでアプローチしていくという視点です。社会システムの理解や対人関係、生活管理など紹介していただきました。この後半部のお話に対しては、参加者のアンケートの中でさらに詳しい話が聞きたいという意見がいくつも見られました。（金井）

